

民家園：旧山下陽朗家住宅

旧山下陽朗家住宅は、白川村に現存する合掌造りの農家の中で最も古いものである。18 世紀半ば、荻町集落の北に位置する島集落に建てられたもので、新しい合掌造りの家とは異なるいくつかの建築的特徴を持っている。その一つは、妻側の屋根裏を藁壁で囲っていることである。板張りではなくシンプルな茅葺きなので、プロの大工が作ったものではないと思われる。1 階の内部では、いくつかの柱が生活空間を分断している。これは、有名な合掌造りに代表されるより先進的な日本の農家建築では、梁や壁の柱をつなぎ合わせることで、部屋に柱を必要としないのとは対照的である。

また、寝床の横にある「構」が高くなっているのは、寝床に敷いた藁が隣の部屋に流れ込まないようにするための工夫であろう。山下陽朗家住宅は、19 世紀に建てられた合掌造りの大規模住宅とは異なり、比較的裕福な家庭であったにもかかわらず、格式のある畳の部屋や床の間はない。それは、この家が建てられた当時、白川にはまだこれらの建築要素の知識がなかったからである。